

2000年に発表された書籍・論文

相田淑子、「レミー・ペローの『ラ・ベルジュリ』とは何か？ -1565年版と1572年版のズレと誤解-」、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）13号、2000年5月、pp.21-39

ISHIBASHI Masatake、Voltige à la Renaissance、Cahiers d'études françaises Université Keio、5号、2000年12月、pp.1-10

岩井瑞枝、「フランソワ1世治世下（1515-1547）における宮廷祭礼とフォンテーヌブロー派の芸術」、『富山大学人文学部紀要』、32号、2000年3月、pp.41-76

岩根久、「E.-L.-N. ヴィオレ=ル=デュック著作目録注解」、『言語文化研究』（大阪大学）、26号、2000.2、pp.219-232

岩根久、「詩と死と癒し -ピエール・ド・ロンサールの場合-」、『人文研究』（大阪医科大学）、31号、2000年、pp.74-91

江口修、「リズムに関するノート」、『人文研究』（小樽商科大学）、99号、2000年3月、pp.9-16

延味能都、「ロンサールのオード集（『第1の書』及び『第2の書』における同一表現）、『独仏文学研究』（岡山大学）、19号、2000.3、pp.19-39

折井穂積、「ラプレーの『第三之書』における「地獄下り」の下層図式」、『仏文研究』（京都大学）、31号、2000年9月、pp.15-28

鍛冶義弘、「Comptes amoureux研究(1)」、『独仏文学』（大阪府立大学独仏文学研究会）、34号、2000年12月、pp.19-33

樺山紘一、高田勇、村上陽一郎編、『ノストラダムスとルネサンス』、岩波書店、2000年2月

気賀沢芙美子、「ロンサールの『一年の四季』における時間」、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）13号、2000年5月、pp.1-19

久保みゆき、「マニエリスムの絵とフランスのマニエリスム詩 -絵画におけるマニエリスムの概念が詩作品の解釈に与える可能性-」、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）13号、2000年5月、pp.59-78

小坂橋淳、「『田園閑話』における家族の形態」、『フランス文学研究』（東北大学）、20号、2000年2月、pp.5-15

小山啓子、「16世紀リヨンにおける国王の入市式」、『西洋史学』199号、2000年12月、pp.22-43

近藤壽良、「金羊毛騎士団第3回例会とミショー・タイユヴァン『金羊毛の夢』-ブルゴーニュ侯の治世における金羊毛騎士団(3)」、『高岡法科大学紀要』、11号、2000年3月、pp.98-112

斉藤重信、「モンテーニュ『エセ』のフローリオ訳」、『神戸大学文学部紀要』、27号、2000年3月、pp.329-344

佐藤正樹、「巨人の口の中で -『ガルガンチュワ大年代記』と『パンタグリユエル』における巨人の「飲み込み」の場面について-」、『早稲田大学文学研究科紀要』、2分冊45号、2000年2月、pp.47-55

鈴木教司、「フランス（ヴァロワ期）民事訴訟史 -書面主義の歴史的背景-」、『愛媛大学 法学研究叢書』、2号、2000年1月

鈴木教司、「フランス売官制の消長（16）司法官職を中心にして」、『愛媛法学会雑誌』、27号-1、2000年8月、pp.1-28

鈴木教司、「フランス中近世の刑罰について（2.完）」、『論集』（愛媛大学法文総合政策学科）9号、2000年9月、pp.1-40

鈴木教司、「フランス売官制の消長（17）司法官職を中心にして」、『愛媛法学会雑誌』、27号-2、2000年10月、pp.1-15

鈴木教司、「フランス売官制の消長（18）司法官職を中心にして」、『愛媛法学会雑誌』、27号-3、2000年12月、pp.1-28

筒井伸保、Le mot de nature dans le chapitre III, 13 "De l'expérience" des Essais de Montaigne、『フランス文化研究』（独協大学）、31号、2000年3月、pp.89-102

土橋貴、「カルヴァンの科学・近代政治思想の祖型」、『法学新報』（中央大学）、107号3-4、2000年9月、pp.333-353

寺迫正廣、「『エッセー』食人種の章におけるOccidentの解釈」、『独仏文学』（大阪府立大学独仏文学研究会）、34号、2000年12月、pp.35-54

Jean-Claude TERNAUX、*La Franciade de Ronsard: échec ou réussite?*、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）13号、2000年5月、pp.117-135

徳永雅、「『エッセー』におけるソクラテス像 -モンテーニュの人相学-」、『日本-フランス語フランス文学研究』、77号、2000年10月、pp.3-12

永井敦子、「16世紀ルーアンにおけるテ・デウム」、『西洋史学』、197号、2000年6月、pp.1-22

西村美穂、「ラブレ 『第三之書パンタグリユエル物語』の構想研究」、『明治大学 文学研究論集』、12号、2000年2月、pp.91-108

二宮敬、『フランス・ルネサンスの世界』、筑摩書房、2000年3月

平野隆文、「ジャン・ボダンの『魔女論』-魔女観と国家観の交差へ-」、『青山フランス文学論集』（青山学院大学）、9号、2000年12月、pp.5-55

フランソワ・パイルー、幸田礼雅訳、『アンリ4世』、新評論、2000年5月

Yvonne BELLENGER、L'originalité du sonnet de Ronsard «Quand vous serez bien vieille...」、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）13号、2000年5月、pp.79-103

Nicolas BOCHENEK、Quelques figures satiriques du dernier «pamphlet» de Ronsard、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）13号、2000年5月、pp.105-115

Jean-Marie POTHIER、La distance intérieure ou le "demi-je" dans Essais de Michel de Montaigne (I)、『フランス文学研究』（東北大学）、20号、2000年2月、pp.16-34

松浪未知世、「デュ・ベレー『哀惜詩集』覚書（その1）」、『学苑』（昭和女子大学）、720号、2000年5月、pp.12-24

宮川慎也、「モンテニユ『エッセー』初頭における自己表現 -1巻4章・9章・10章・17章-」、『ロ  
ンサル研究』（日本ロンサル学会）13号、2000年5月、pp.41-57

宮下志朗、『エラスムスはブルゴーニュワインがお好き』、白水社、2000

Monique MUND-DOPCHIE、Les Merveilles de l'Orient lointain -Ethnocentrisme européen et altérité des  
confins de l'Antiquité à la Renaissance-、『福岡大学人文論叢』、31巻4号、2000年3月、pp.2713-2735

柳沼正広、「エラスムスの思想形成・異教古典の理解を中心に」、『創価大学大学院紀要』、21号、  
2000年1月、pp.203-216

和田光司、「「1572年の規約」について サン・バルテレミー直後のフランス、プロテスタントの一  
断面（中）」、『論叢』（聖学院大学）、12-2号、2000年2月、pp.233-247